

1学期の出来事より⑦ 戦争体験から何を学びますか？寺本さん方のお話



母校の本荘小で戦争の話をする寺本至孝さん（中央）と同級生の2人＝熊本市中央区

8月5日（土）の熊日朝刊に、本校の6年生が学習した平和学習が特集記事として掲載されました。記事の詳細は、熊日をお読みいただければわかりますが、そこには、ゲストティーチャーとして来てくださった、本校卒業生で元小中学校教諭の寺本至孝さん（86）熱い思いがあったのでした。寺本さんは、毎年、お友だちと一緒に本荘小学校の平和学習のためにご講話をいただいているのです。

この写真は、当時の卒業証書を見せてくださっているところです。今の証書と比べてペラペラの薄い紙なのです。戦争中であるが故の悲しい卒業証書です。6年生は、当時の証書や通知表を見せてもらいながら、今の時代が、かなり裕福であること、そして幸せであることを実感していきます。新聞記事でも書かれていましたが、寺本さん方の想いは、「戦争のことを後世に伝えておかない」というものです。ですので、毎年、学校を訪れてくださります。



大事なことは、子どもたちや私たち学校側が、「何を学ぶか？」をきちんと考えておくことなのだと思います。ただ、受け身で「語り部」の方々の話を聞くだけで終わらないようにしなければなりません。（裏面に続きます）

「熊本大空襲で花火のような焼夷 [しょうい] 弾が落ちてきて、生きた心地がしなかった」
「(戦後の) 給食の脱脂粉乳は味やにおいが悪く、我慢して飲んだ」



という先人の言葉から、「今は平和でよかった」と安堵するのではなく、「もう二度とこのような思いをさせてはいけない」とこれからの未来のことをしっかりと考えることができるように、学びを積み上げていかねばならないのです。

この写真のように、6年生の子どもたちは、寺本さんのお話真剣に耳を傾け、自ら学ぼうとしていました。担任の福嶋先生の指導もあり、修学旅行を含めた、総合的な学習の時間の「学び」として、6年生は真剣に平和学習を積み上げてきたからの2時間だったと思います。

記事の中で寺本さんは、「『大きすぎるテーマだったかな』と苦笑いした。」と書かれていましたが、6年生は、寺本さんの期待通り、いやそれ以上にしっかりと学んでいたと思います。この6年生の姿は、先輩たちから受け継いできたものでもあり、これから、下級生が受け継いでいかなければならないものでもあります。

戦争について「語り部」さん方から、「何を学ぶか？」が本荘小に問われているのだと改めて考えた、新聞記事だったととらえています。(校長)

校長先生の虫眼鏡 「中身がいっぱい詰まった2時間だったのです」

寺本さんがおっしゃっていましたが、2時間でも足りないくらいの内容でした。資料も豊富ですばらしい平和講話だったのです。学校としては感謝しかありませんでした。



当時の爆撃機の写真



記者さんもまだ若い



当時の少年時代のみなさんの写真



この学習意欲を見てください



当時の通知表です。



6年生の平和学習ノートです。

「すばらしい」の一言！！